

予算質疑

9名が平成19年度予算等を問う

後藤憲志 議員

問 一般会計補正予算（第3号）老人福祉費の内「包括支援センター運営事業費の減額補正」について、この減額補正は新予防給付計画策定料で、1,078万9千円の減額により当初予算1,178万1千円の一割弱9万2千円となる。この大きな減額の生じた理由と新予防給付による成果は

答 予算編成当時、地域包括支援センターが行う予防給付のケアマネジメンツの報酬・基準について示されていなかった。当時の居宅介護支援費8,500円を基準として予算計上をしましたが、介護予防支援費が4,000円また、介護予防支援費の初期加算分として2,500円と報酬額が低く設定されたことにより、介護予防支援費で4,500円、初期加算分で2,000円

の差額が生じてきた。また、対象者となる要支援1、2の人を介護度1から移行してくる人と新規に認定される人と併せ10%と見込みましたが、認定基準の見直し等により対象となる人が予想よりも少なかった。また、介護予防サービス計画の作成について、当初全て委託と考えていたが、概ね半分を包括支援センター職員が自前で計画を策定することができた。以

上が減額の理由です。新予防給付の成果については、毎月40人位が新予防給付による訪問介護、通所リハビリ、通所デイサービス等のサービスの提供を受けている。成果については事業がスタートして1年に満たなく、また直ぐに成果が現れるものでもありませんので今暫く様子を見たい。サービス事業所の評価では改善されたという人も出ております。



岡村 勝 議員

算で歳入につきましてもは土木費補助金を減額いたしまして、消防費補助金に振り替えをした際、消防費補助金を道路橋梁改良費に財源充当を行わなければならなかったわけですが、その処理を怠っていたことが判明いたしました。従って財源内訳の修正をさせていただきま。今後この様なことの無い様細心の注意を払ってまいります。

阿南澄男 議員

歳出予算の調整を図るなかで大変きびしいところでした。18年度生活環境整備事業によりまして相当箇所が施工できたと思われま。結果的には減額となりましたが、緊急を要する必要事項が発生した場合におきましては、補正予算等を組んで対応してまいりたいと考えております。

問 補正予算の道路橋梁改良費について、財源内訳欄で2,000万円が国県支出金から一般財源に変更がなされているが、その理由は

答 財源内訳を精査したところ、当初予算では中段坂避難路改良につきまして土木費県補助金で計上しておりましたが、消防費県補助金の規模地震対策等総合支援事業補助金の該当事業であるため、今回の定例議会の補正予

問 19年度予算において土木費中の生活環境整備事業について、私は融通のきく、しかも市民の要望に対しスピード感を持って対応できる非常に良い事業予算だと評価させていただきます。

し、平成18年度末で約137億円、利息約32億円で合計は約169億円です。利息は7.5%、0.4%、平均3.1%。一部事務組合等、市の負担する平成19年度以降の償還額は約61億4,000万

問 公債費の元金と利子支払が5億7,000万円となっており、市単独の利息を加えた起債残高と、一部事務組合・企業団・牧畑等の利息を加えた債務と総額は

平成18年度末で約137億円、利息約32億円で合計は約169億円です。利息は7.5%、0.4%、平均3.1%。一部事務組合等、市の負担する平成19年度以降の償還額は約61億4,000万